

コロナ禍においても木材輸出は増加

主事研究員 安藤範親

1 増加傾向にある木材輸出

日本の木材輸出額は、2000年代は100億円程であったが、2013年以降は中国の需要増加や木材輸出国の輸出規制などを背景に増加傾向が続いている。20年は、新型コロナウイルスの流行で世界経済が停滞したものの、日本の木材輸出額は357億円と前年比で3%増加した(第1図)。その内訳は、全体の4割半ばを占める丸太が163億円(前年比11%増)、次いで製材が68億円(同13%増)、合板が58億円(同11%減)であった。合板など前年割れとなった製品もあるが丸太と製材の輸出増加が、木材輸出額全体の伸びに寄与した。

コロナ禍で木材輸出の現場に何が起きたのか。20年の木材輸出量における主要3品目の動向をみることにする。

2 丸太は中国向けが増加

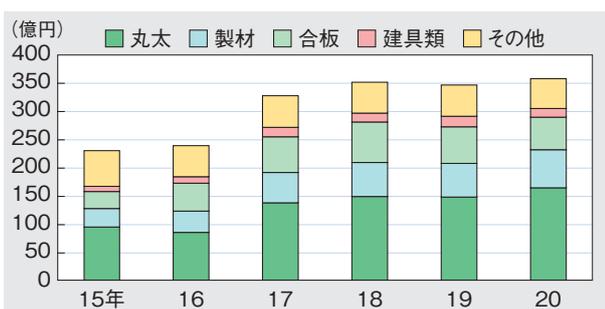
20年の丸太輸出量は、138万 m^3 (19年国内丸太生産量3,099万 m^3 の4%)と前年比で22%増加した。輸出先別にみると、その8割半ばを占める中国が116万 m^3 と同23%の増加であった。

次いで韓国が12万 m^3 (同17%増)、台湾が8万 m^3 (同12%増)であった。

中国は、20年初めの新型コロナウイルス感染拡大の影響で、3月にかけて経済活動が停滞した。そのため日本から中国への丸太輸出量が急減し、輸出港に原木が滞留した。4月以降は、中国各都市のロックダウン(都市封鎖)の解除に伴って生産活動が回復に向かった。一方で、世界での感染拡大により、ニュージーランドなど主要丸太輸出国の中国への丸太供給が滞った。その代替措置として、4月以降は中国からの日本産丸太需要が急増し(第2図)、4月以降の輸出量は月間10万 m^3 を超える水準で推移するなど、前年同月比は一貫して増加している。

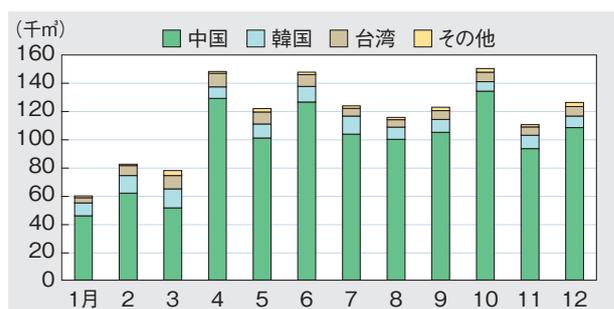
20年における中国向けの丸太の年間平均価格(FOB:本船渡価格)は、立米あたり1万1,261円であった。価格は、1年を通しておおむね1万1千円台(港土場着価格9千円台)で推移した。19年第2四半期に起きた米中貿易摩擦による追加関税で中国の丸太輸入価格が低下し、その影響で日本の丸太価格の低下が続い

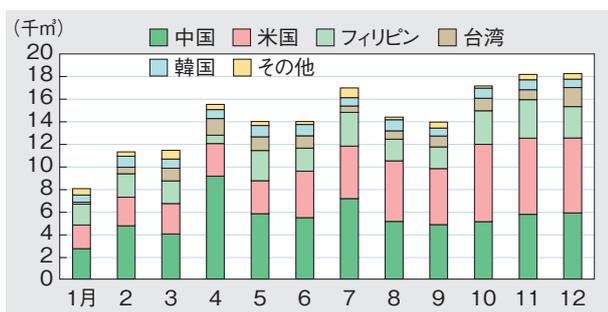
第1図 木材輸出額の推移



資料 財務省「貿易統計」、以下同じ

第2図 丸太輸出量の推移(20年)



第3図 製材輸出量の推移(20年)

ており、19年の年間平均価格(1万2,571円)と比べ1千円強下落している。

3 製材は米国向けが増加

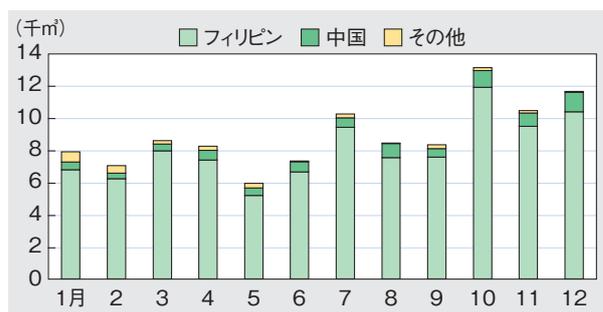
製材輸出量は、17万m³(19年国内製材出荷量903万m³の2%)と前年比で17%増加した。輸出先別にみると、4割弱を占める中国が6万5千m³と前年比1%の増加であった。次いで、米国が5万3千m³(同116%増)、フィリピンが2万7千m³(同12%減)であった。

米国向けの輸出は、同国各都市のロックダウンの解除に伴って6月以降急拡大した(第3図)。その背景には、コロナ禍に在宅勤務が広がった結果、リフォームや住宅市場が活況に転じ、同国向けの主力である住宅用フェンス材の需要が高まったことがある。

20年の米国向けの製材の年間平均価格(FOB)は、立米あたり4万8,043円であり、1年を通しておおむね同価格で安定していた。20年の米ドル円相場は前年と比べて円高傾向であったが、現地販売価格の値上げにより米国向けの価格は前年(4万7,821円)とほとんど差がなかった。

4 合板は日本の住宅着工減で輸出減少

合板輸出量は、11万m³(19年国内合板出荷量393万m³の3%)と前年比で8%減少した。輸出先別にみると、9割を占めるフィリピンが

第4図 合板輸出量の推移(20年)

9万6千m³と前年比8%の減少であった。次いで、中国が8千m³(同12%増)であった。

フィリピン向けに輸出される合板の多くは、同国内で加工・組み立てされ、住宅用建築資材として日本に再度輸入されている。そのため、合板輸出は、日本の住宅着工動向の影響を受けやすい。20年上半期における日本国内の新設住宅着工戸数は、緊急事態宣言後に大幅に減少した。しかし、着工戸数は下半期に徐々に持ち直しており、その動向が合板輸出の推移にも表れ、輸出量は上半期と比べ増加傾向にある(第4図)。

20年のフィリピン向け合板の年間平均価格(FOB)は、立米あたり5万2,866円であった。上半期における日本国内の合板需要の落ち込みなどの影響で、年間平均価格は前年(5万4,108円)よりも1千円強下落した。

5 木材輸出の先行きは堅調

以上のように、20年の日本の木材輸出は、コロナ禍で上半期は停滞したものの下半期には回復傾向にあり、丸太や製材の輸出額および輸出量は前年と比べ増加した。世界経済の先行きは依然不透明ではあるが、徐々に正常化すると見込まれ、それに伴い木材輸出は堅調に推移すると予想される。

(あんど う のりちか)